

都市整備部管理課

【既定】	新たな地域交通の整備	予算額 100,230 千円
【新規】	自転車活用の推進	予算額 1,050 千円

### 事業の目的・概要

ゼロカーボンシティの実現等を見据え、誰もが気軽に移動できる利便性の高い地域交通環境の形成を図るとともに、スマートシティの実現を目指し、都市OS（データ連携基盤）や3D都市モデルの調査・研究を含め、環境にやさしい移動経路の推奨等、新たな移動の価値を創出します。

また、令和6年度を始期とする「杉並区自転車活用推進計画」に基づき、交通の安全の確保を図りつつ、区民や事業者に自転車の多面的な価値や魅力を伝えることなどを通じて、誰ひとり取り残されることなく心身も社会的にも健康な状態の実現に向け、自転車の活用を推進します。

### 主な取組内容

#### ▶ グリーンスローモビリティ<sup>※1</sup>の導入 **新規**

令和6年12月の荻外荘公園<sup>てきがいそう</sup>の開園にあわせて、荻窪駅南側地域における区民や来街者の回遊性を向上させるため、グリーンスローモビリティの運行を開始します。



※1 グリーンスローモビリティ…時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称。

#### ▶ 新たなモビリティサービスの実証実験 **新規**

公共交通や徒歩・自転車による移動のつながりを高めるMaaS<sup>※2</sup>の実装に向けた取組に加えて、将来を見据えた自動運転技術の活用を検討するとともに、交通不便地域においては、AIオンデマンド交通<sup>※3</sup>の実証実験を行います。

※2 MaaS…Mobility as a Serviceの略。ICT活用による移動をスムーズにつなぐ新たな「移動」の概念又は様々な移動サービスを1つに統合させた新たなモビリティサービス。

※3 AIオンデマンド交通…路線やダイヤを定めず、利用需要（利用者の予約）に応じてリアルタイムの配車や経路の設定、乗合等をAI（Artificial Intelligence：人工知能）が最適化し運行をする新たな交通システム。

#### ▶ 自転車フレンドリープロジェクトの実施 **新規**

未就学児向けじてんしゃゲームの試行や区職員による自転車の業務利用の拡大などを通じて、自転車の多面的な価値や魅力を区民や事業者に広く周知するとともに、自転車が歩行者やクルマのドライバー等から受け入れられ、限りある道路空間を譲り合う風土の醸成に区民と共に取り組みます。

#### ▶ モビリティ・マネジメントの実施 **新規**

ゼロカーボンシティの実現や包摂的な都市交通への転換に向け、クルマから公共交通・自転車への利用転換を促進することで、区民が少しずつ自発的に、公共交通や徒歩・自転車などの多様な移動手段を、適度にかしこく選択するよう行動変容を促します。

